

発行——山形県米沢市門東町1丁目1番72号 九里学園同窓会事務局 TEL 0238—22—0091



同窓会主催 記念音楽会「ダ・カーポ ファミリーコンサート」1992. 10. 13

## 学園近況

遠藤 岩根

同窓生の皆さんの活躍と、確かな生き方にいつも敬服しております。

さて、在校生も陸上部の土屋さんがハードルでインターハイ優勝、卓球部も団体出場を果たす等々、よく頑張ってくれました。文化部では書道部が県代表として沖縄へ、吹奏楽が県金賞、美術の小森さんが県で最優秀等が特筆すべきところで、べにばな国体でも、各会場で活躍した

本校生は、清楚でさわやかな印象をのこしました。自主研究で社会福祉をテーマにした三年生は、老人介護でおしめを替える実習をしたという子もおります。

ところで、アメリカが選んだ大統領クリントン、アーカンソーの小さな町ホープの出身ですが、彼は「ホープ」という町が今もアメリカにあることを信じて」と演説して共感をえました。元気を失ったアメリカにホープ（希望）をとりもどすという使命を感じての言葉だったからです。

くしくも本校の校長九里廣志先生もクリントンと同年代。今迄のベテランの校長先生とはまたちがったかたちで、これからの学園の希望や抱負を語り合える本校生徒、教職員は幸せです。

同窓生のさらなるお力添えをいただきますようお願いいたします。

## 子供たちへの夢をのせて

学校長 九里 廣 志

日本でも東北の置賜を含むほんの一部の地域にしか生息しない「チョウセンアカシジミ」という小さな蝶の記録映画づくりの名を連ねました。私は蝶の専門家でもありませんし、また映画の知識が特にあるわけでもありませんが、世界でも数少ない蝶の絶滅をどうにかして救おうと立ち上がった人たちの手助けができたらと思つて、無力を承知での協力です。

玉庭の農家に撮影隊が住み込んでの映画づくりは、昨年末には中山千夏さんのナレーションも入つて、今年、ようやく皆さんにお見せすることができるような段階になりました。卵から成虫までの世代交替のサイクルが年に一度という、極めてテンポが遅い蝶ですので、撮影も撮り直しがきかないので、一瞬を逃がすまいと緊張の連続だったようです。秋に米

沢を会場に開催された全国の自然保護団体の際に、途中経過の報告をも兼ねて一度試写されました。作る立場の私たちが言うのも何なのですが、なかなか前評判も良く、ホツとしているところです。完成作品の正式上映の第一回目は、この蝶の主な生息地でもあり、金銭的にもその他のあらゆる面でも協力していただいた川西町で行われる予定です。是非ご覧ください。

ブラジルでの地球環境会議では煮え切らない態度に、またさまざまな反対を押し切つてのブルトニウムの輸送にと、自然保護では国際的にも非難をあびている昨今の日本ですが、これからの子供たちにとって、少しでも豊かな自然に恵まれ、不安無く生活することのできるきっかけになるよう祈りたいと思います。映画のタイトルは学園長の字によるものです。



## 明日また 元気に 働くための応援歌

同窓会の研修で  
越後馨女唄を聞く

1992. 6. 28

## 母校会場の 手づくり総会

(S 43年卒) 鍾水美恵子

六月二十八日(日)百八十名の出席者のもと、母校において同窓会の総会が開催されました。今回の当番は「二」「三」のつく学年で、何回とない会合の結果、研修は「馨女唄」を聞くことになりました。そのため例年とは大きく異なり、「質素」というイメージを大切にして会場を母校にすることにしました。パーティーもなし、会費も少なく、と会場づくりから昼食の準備までお手製で頑張ることにしました。

当日総会では、事業報告と事業計画案が報告され、記念音楽祭は「ダ・カーポ」と決まりました。その後、同窓会では大変お世話になりました前校長であられる加藤和夫先生に、お礼の気持ちをお伝えたく、この総会の場をお借りして同窓会長より感謝のことが述べられました。次は簡単な昼食会となり、あわただしい中にも和やかで楽しい集いとなりました。手づくりの漬物とお寿司をほおばりながらおしゃべりする顔はみんな高校生、そんな一齣(ひとまじ)でした。

一時より「馨女唄」を聞かせていただきました。生まれて初めて聞く人、懐かしくしみじみと耳傾ける人、様々でしたが三昧の音色だけで語るはなしと唄に、感無量となる場面もあり、別世界に吸い

# 記念音楽会

## ダ・カーポ コンサート

1992. 10. 13

# 二人の美しいハーモニーが目標です

(S 46年卒) 本間ちる子



九里学園創立九十一周年記念行事にふさわしく、去る十月十三日、私達の世代の懐かしい歌と、素晴らしいハーモニーの中で楽しく時間を過ごさせていただきました。私は毎年友人を誘い、この音楽会を楽しみにしておりますが、今年はダ・カーポのコンサートとお聞きし、心待ちにしておりました。この音楽会は年に一度の、懐かしい同窓生や先生方との出会いの場でもあり、また思い出に花を咲かせる場でもあります。

「今、私の願い事が……」で始まる『翼を下さい』、そして『あの素晴らしい愛をもう一度』など、その時代に私達の胸に残っている歌ばかりでした。この日は子供二人を連れて行き、現代の子供達の反応を知る事が出来

ました。心に残る歌は、時代を超えて今でも歌い継がれているようです。それぞれに感動し、共に口ずさんでいる様子でした。また『野に咲く花のように』や『結婚するって本当ですか』などはおなじみの曲ですが、『若者たち』を全員合唱した時には懐かしさで胸が一杯になり、子供達と一緒に大声で歌ってしまいました。

私は、市内の合唱団に入りコーラスをしています。このお二人の歌声とハーモニーは、永遠に目標とするところです。大盛況のうちに幕を閉じた記念音楽会でしたが、それぞれの胸に熱い思いと、確かな満足感が得られたのではないのでしょうか。

更に、次年度へのまた新たな期待をもって、夢の様な一時を過ごせたことを心より感謝致します。

### 琴線に触れる

### 郷愁の

### 瞽女唄



込まれていったひとときでした。もうひとつ例年とちがうことは、めったに聞くことの出来ない「瞽女唄」ということで一般券を出し、同窓会以外の方にも喜んでいただくことが出来た事です。今回の同窓会は何から何まで初めてのケースで、当番学年は一日中心配の連続でしたが、なんとか成功に終わり、今後の同窓会活動の方向づけが出来たと思っています。

瞽女の文化は雪国で花開きました。この女旅芸人がうたう唄は、かつて働く人々の心を慰め、ぬくもらせてきました。瞽女は、昭和五十二年を最後に途絶えましたが、竹下玲子さんが継承され、よみがえりました。研修は、この竹下さんの瞽女唄を聞く会でした。ピンと張りがある声が母校のセンターホールに響きわたりました。私達の先輩が唯一の娯楽として大事にした瞽女唄は、激しい農作業の中で、明日また元気に働くための応援歌だったように思えました。そしてしみじみ耳かたわけて聞く聞き手こそが胸にしみる語りをつくってきたとも言えます。

『葛の葉子別れ』は、時代を経ても変わらぬ母と子の情愛を語り、琴線に触れるものがありました。今回の企画では、じっくり聞かせる、聞き入るといふ心の伝え合いのすごさを体験しました。

一日にして

# 学生時代に戻る

1992. 5. 30

## 関東支部 同窓会総会



吉川宣子 (S30年卒)

平成四年五月三十日(土曜日)関東支部同窓会、並びに平成三・四年度新卒生関東在住者激励会が、二年振りに上野精養軒で開催されました。雨の中、二四〇名、恩師旧友あいつどい、会場のあちらこちらで、旧交を温める光景が見られました。

四時より占部支部長の開会の挨拶に始まり、竹田同窓会々長、九里学校長、加藤前校長の御挨拶、新卒者の紹介、代表して平由美さんの挨拶がありました。新旧校歌を全員で合唱、母校との絆が強まる瞬間でございました。

第二部は前回と同様、郷土出身の落語家・三遊亭金太郎師匠に司会を依頼。ジャンケンゲームをやり、各テーブルで一

人勝ち抜かれた人に、豪華賞品のプレゼントがありました。福引もあり、大勢の方に賞品が当たりました。

最後に全員輪になって「仰げば尊し」、「蛍の光」を合唱し、和やかな中に二時間の会を閉じました。

盛会に遜色のない内容を、と幹事一同ブレスチャイを抱きながら、半年間準備を重ねて参りました。

同窓会のいいことは、何十年経っても、一日にして学生時代に戻る事だと思います。同窓会を更に大樹に広げて、通じ合える友が大勢集まる「寄る辺」としての役割が果たせたらよいと思います。

最後に、学校事務局、諸先輩、会員の皆さまの助言と御協力によりまして、総会が盛会裡に終了出来ました事を、実行委員一同心より感謝申し上げます。



## 客引き名人

岡崎広志

〔広志氏は、全日本弓道選手権大会でS57・60・62年優勝。へにはな団体では弓道の指導員として活躍されました。〕



岡崎康子 御夫妻

(S39年卒)

妻は、女子高弓道部のOGで弓道参段であるが、今は全くやっていない。しかし、口だけ三人前で若い弓道連盟の会員に説教している。自分を棚に上げて私にも口うるさく指図するので閉口する。それで威張っていられるから幸せものである。

私は、人の顔や名前を覚えるのが大の苦手である。弓道で全国の方々とお会いする機会が多くあるが、顔と名前が一致しない。失礼なので覚えていた様な顔をして話を続けているのだが、頭の中は必死で名前を模索、大混乱である。しかし、妻は一年以上も前に来られた方々を覚えることか顔・髪型・服装までよく覚えていたのである。

さて、我家は女子高時代の友人が朝昼夜と毎日来宅していたが、誰が主人かわからない状況である。妻は友達が大得意で、私は三番目にも入らないようだ。茶飲み相手がいらないと妻は、時折道路で客引きをやる。その引き込み技はたいしたものである。その特技を活かせるのは行事等の売り場の手伝いである。頼まれると自分の出番とばかりがぜん張り切り出す。性格は私と正反対。

妻は、長生きするタイプと思われる。

# ひびき合う心を育てる

## 老びしいことをやさしく

後藤先生の講演から  
於・九里幼稚園  
10月21日

### 職場訪問



です。

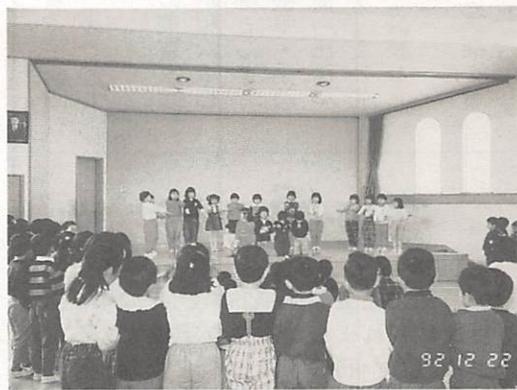
自然の中で子供が「何だろう」という疑問が大事ですね、実を植えると芽が出て木になることを知っています。そして廻りまわった自然の循環を感じています。

質問 動物を飼う(サンショウウオ他) こと、その動物が共食いする現実をどう説明すべきでしょうか?

答 動物の死、この現実を直視させることも大切ですが、ときとして死ぬことを教えることがあります。私の園では本来その動物が生きているきびしい自然に返すべきだと考え、飼っていません。その場に連れて行って出会わせることにしています。

幼稚園で育てるのは感性です。新しく園舎をつくる時、なんとしても木でつくりたいと思いましたが。木は子供をはじき返さないからです。また、私は子供達の視線を上げてやりたいと思っています。それによつて、大きくはつきりした声が出ます。歌を美しくうたえます。自分の思いを話せるようになります。そして、いい笑顔がつけれます。親が収入を得るための一週間と、子供と一日遊ぶ時間は同じ重さだと思えます。「きびしいことをやさしくいう」ことが大切

やまべ幼稚園  
(S17年卒) 後藤和枝先生を訪ねて



## 木は子供を

## はじき返さない

十二月二十二日山辺町のやまべ幼稚園 園長・後藤和枝先生をお訪ねしました。ふくよかな後藤先生に迎えられ、園内を見せていただきました。幼稚園は町から少し入ったリング畑の中の閑静な所であり、平屋建てでした。園内は木がふんだんに使われて機能的で何とも言えないぬくもりを感じました。和枝先生は茨城県日立市のご出身で、昭和十四年米沢に転居、九里に転校されました。九里とみ先生に二年分の細目を仕上げるという約束で入学を許可されたそうです。十七年に卒業。山辺にこられ、ご結婚。その時から町の小中学生を対象に日曜学校を開かれました。

三番目の子供さんを山形まで通園させるよりはと考え、幼稚園をはじめられたそうです。こうして五十六名の小さなやまべ幼稚園が出来ました。お話の中で印象に残ったのは、四十歳になってから羽陽短大に入学され、若い人と一緒に学ばれたという強い信念です。また、ドイツでシユタイナー教育を研修され、感性を育てる幼児教育への研鑽をつまれました。

やまべ幼稚園では、縦割りのグループになっていて、子供たちは出来る子が教えてあげる自然な雰囲気がありました。「豊かな自然環境を生かし、キリスト教的人間観に基づく自主性と創造力を育てる」ことを目標とされ、野菜・草花の種まき、収穫の喜び等々、たくさん行事があるそうです。うかがったときは丁度クリスマス劇を全員で取り組んでいるところでした。壁には小さなクリスマスリースがたくさん飾られていましたが、それはこの園を卒業された中学生が作ってくれたものだと思います。園には短大時代の同期生が手伝いに来て下さるなど、和枝先生のお人柄を感じました。ひびき合う心を大切につくってこられた後藤先生に平成四年十月、私学教育功労賞が贈られました。(S 24 卒 行方絹代 記)

# クラス会



S 44年卒 家庭科一組

水野とも子

若かりし平賀先生に担任して頂きました。二年間、何かとご苦労の多いクラスだったのではないでしょうか。あれからはや二十五年の月日が流れ、先生が表彰されたことをお聞きしました。先生を肴に飲もうと話がまとまり、お忙しいところ無理に時間をさいて頂いて急な段取りをしました。地元の方を中心に、遠くは秋田から駆けつけた方、卒業以来初めてお目にかかった方など、十八名が集いました。

タイムトンネルを行ったり来たり。当時の懐かしい話や、今だから話せることなども出ました。現実に戻り、我が子の受験に向けての相談など、二

次会も延々夜明け近くまで続きました。今度は、南陽市でシワの数えっこをしたいと思っています。



田中トシ子先生を  
偲ぶ

## 平成4年度 一般会計収支予算書

### (収入の部)

項目	本年度予算	前年度予算	増減	備考
繰越金	232,342	249,485	△17,143	
入会金	324,000	345,000	△21,000	3年度卒業生324名×1000円
終身会費	1,620,000	1,725,000	△105,000	// 324名×5000円
事業収入	100,000	100,000	0	音楽会
寄付金収入	50,000	80,000	△30,000	
会報講読料	70,000	0	70,000	
基本金から繰り入れ	0	8,000,000	△8,000,000	
雑収入	3,658	515	3,143	利子、その他
合計	2,400,000	10,500,000	△8,100,000	

### (支出の部)

項目	本年度予算	前年度予算	増減	備考
運営費	740,000	680,000	60,000	
事務費	50,000	50,000	0	事務用品
通信費	150,000	150,000	0	
旅費	120,000	50,000	70,000	役員の出張経費
会議費	100,000	100,000	0	役員会など
人件費	100,000	100,000	0	
慶弔費	80,000	70,000	10,000	
印刷費	100,000	100,000	0	会員証など
雑費	40,000	60,000	△20,000	
事業費	620,000	9,780,000	△9,160,000	
総会経費	150,000	200,000	△50,000	講師の旅費、交通費など
会報発行費	340,000	480,000	△140,000	編集、印刷、配布経費など
音楽会経費	0	1,000,000	△1,000,000	
支部活動補助	130,000	100,000	30,000	
90周年協賛	0	8,000,000	△8,000,000	
基本金繰入金	1,000,000	0	1,000,000	
予備費	40,000	40,000	0	
合計	2,400,000	10,500,000	△8,100,000	

米沢市立病院でご加療中のところ、平成四年五月十九日、脳梗塞のため七十二歳で逝去されました。

先生は母校をご卒業の後、現在の東京家政大学で学ばれ、昭和二十八年から昭和六十三年三月まで、ご専門の家庭科の教師として、繊細な感覚とすばらしい技術で、被服・手芸の幅広い分野を教えられました。思い出深い会員も沢山おられること存じます。また、先生は同窓会の発展に力を入れられ、会長と共に会のいしづえを築かれた方です。

在りし日のお姿を偲び、心からご冥福をお祈りいたします。(S23卒 遠藤文字 記)

## 連・絡・板

○加藤和夫先生が在職35年で、平成4年3月退職されました。私立学校である九里の教育一筋にうちこんでこられた先生に、深く感謝いたします。

○同窓会長の竹田カツさんが農協人文化賞を受賞されました。農村婦人の幸福を命題とした活動に対する表彰です。おめでとうございます。

○クラス会やその他で住所録を作成されましたら、一部学校事務局へもいただけますようお願いいたします。